

令和6年度 青少年の家不登校対策事業「第4回ふれあいキャンプ」事業報告書

1 事業内容

(1) 趣 旨 青少年教育施設において、学校生活に悩みを持つ児童生徒を対象に、学習活動、自然体験活動、集団活動、仲間との交流を図ることで新たな自分に気付き、周囲との関係について学び、自分を見つめ直そうとする機会の提供に資する。

(2) 対 象 県内の不登校傾向が見られる小中高生 20名程度

(3) 期 日 令和6年10月19日(土)～20日(日) 1泊2日

(4) 場 所 香々地青少年の家

(5) 参加人数 15名 (児童生徒9名、保護者6名)

	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	高1	合計
男子			1		1	3			5
女子			1		1		1	1	4
合計			2		2	3	1	1	9

(うち日帰り：小6男子1名、高1女子1名 計2名)

(6) 講 師 大分大学助教授 増田 成美 氏

(7) 支援者 大分大学学生 12名

(8) プログラム

①活動Ⅰ：「モルック大会 kakadi 杯」

年齢・性別・体力に関わらず誰でも気軽にできる軽スポーツ「モルック」を実施した。雨天のため屋内での実施となった。参加者は自分のチームに関わらず、ナイスプレーのときも失敗したプレーのときも楽しみながら、積極的に参加していた。ゲーム後のおやつとして「じゃがいものホイル焼き」をたき火で作り、皆で味わった。



②活動Ⅱ：「お月見探検！」

「ハロウィン工作」と「月の実体観測」を予定していたが、天候不良のため「工作」と「プラネタリウム」の実施となった。ハロウィン工作では1人1個ジャックオランタンを作製した。完成したランタンを持ってプラネタリウムに向かい、仮装した職員からお菓子をもらった後、プラネタリウムの鑑賞を行った。



③活動Ⅲ：「秋の大分スイーツを作ろう！」

秋の味覚さつまいもを使った大分の郷土料理「石垣もち」作りを行った。2グループに分かれ、自分たちで役割を分担し、協力して作業を行い、おいしい石垣もちを完成させることができた。



(9) 事業評価

参加者アンケート集計 (対象: 参加者8名)

1. キャンプの満足度

	4	3	2	1	平均
モルック大会 (8)	8				4.0
お月見探検! (8)	5	3			3.6
秋の大分スイーツを作ろう! (6)	6				4.0
のんびりタイム (8)	8				4.0

2. 自己評価

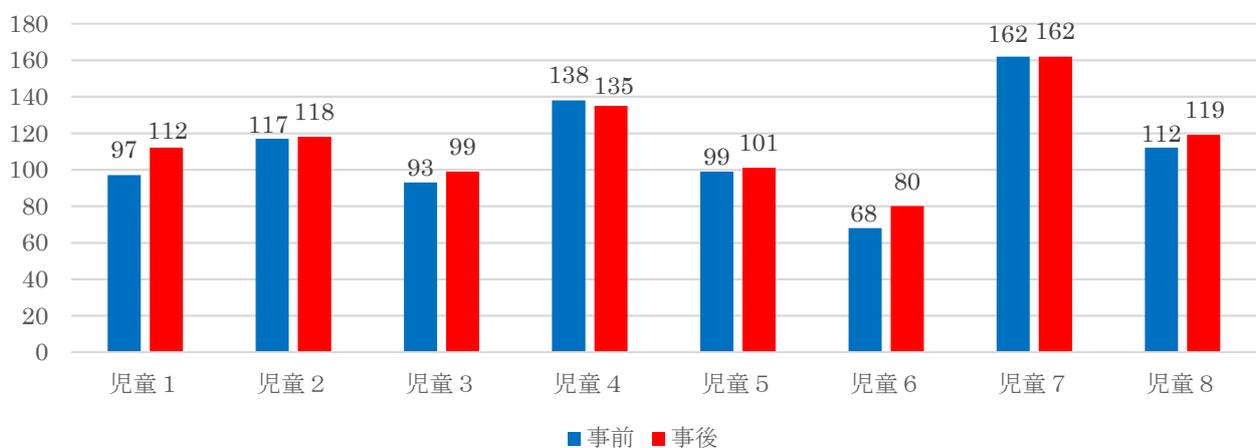
	4	3	2	1	平均
活動に積極的に取り組むことができた	8				4.0
MF や友だちと話げできた	8				4.0
キャンプを楽しむことができた	8				4.0
周りの力をかりずに活動げできた	4	2	2		3.3

メンタルフレンドアンケート集計 (対象: メンタルフレンド12名)

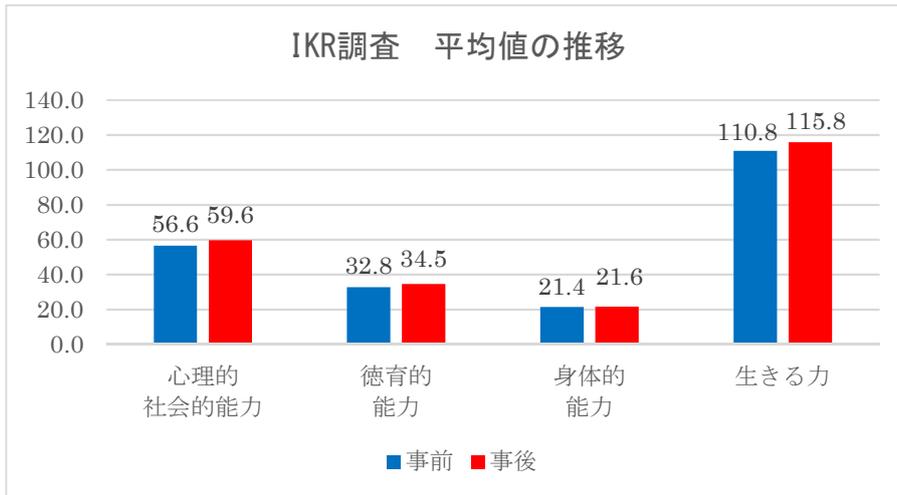
	4 (変化大)	3	2	1 (変化小)
意欲	11	1		
コミュニケーション	4	5	3	
自己肯定感	6	6		
自立	4	7	1	

IKR アンケート調査集計 (対象: 参加者8名)

「IKR調査」個人データ 事前・事後比較



IKR 調査は参加者8名に実施した。8名のうち6名に心の変容がプラスに表れていた。→ 75.0%



「心理的社会的能力」では、3.0ポイント、「徳育的能力」では、1.7ポイント、「身体的能力」では、0.2ポイント、「生きる力」では、5.0ポイント向上。
→ 全ての項目、向上に有意差が見られた。

3 成果と課題

(1) 成果

- どの活動についても満足度の高いキャンプとなった。
- アンケート結果より「のんびりタイム（自由選択活動）」での満足度が高く、重要な活動であることが分かる。不登校または不登校傾向にある子どもにとってメンタルフレンドとのつながりを深める時間であるとともに、メンタルフレンドが参加者に意思を確認、または選択肢を提示することで、自己選択・自己決定を促す機会となっている。参加者全員が1つの部屋に集まり、一緒に活動する場面が見られるなど、各々の人間関係がうまく構築され、交流を深める様子もうかがえた。
- 参加者にとって、メンタルフレンドの存在が非常に大きい。子どもに安心感を与え、子どもの活動意欲の向上にもつながっている。メンタルフレンドは、子どもの様子や特性を理解するとともに主体性を尊重し、自己決定を促す関わり方を継続して行っている。メンタルフレンド会議や提出された記録より、子どもの行動に対して理解し、声かけや行動などの働きかけを行っていることが分かる。

(2) 課題

- 今回の参加者も全員がリピーターであった。参加者にとって、青少年の家が安心できる第3の場所になっているように感じている反面、情報を必要としている相手に届く広報活動を考え、新規参加者の増進を図りたい。
- 今回の参加者はふれあいキャンプに複数回参加しており、そのたびに IKR 調査を実施しているため、回答がルーチン化しているように感じる。

(3) 子どもたちの声（メンタルフレンドに対して）

- 楽しかったよ！今度のキャンプもまた遊ぼうね！
- MFさん、お世話してくれてありがとうございます。
- 一緒に遊んだり、一緒に過ごしたりして、2日間とても楽しかったです。ありがとうございました。
- 一緒に活動したり、おしゃべりをしたり、とても楽しかったです。